



2020 RACE REPORT

#52 埼玉トヨペット Green Brave GR スーブラ GT

2020年9月12日(土) ~13日(日)

AUTOBACS SUPER GT Round4

FUJIMAKI GROUP MOTEGI GT 300km RACE

ツインリンクもてぎ(栃木県茂木町)

■ ■ ■ ■ ■ 重い車重に苦しみ 25 位。ノーポイントに終わる ■ ■ ■ ■ ■

SUPER GT 第4戦がツインリンクもてぎで行われた。レース距離は300km。ウェイトハンディは前戦と同じ75kgのままだが、GTAが行う性能調整(BoP)により、新たに+25kgのウェイトが課されている。ストップ&ゴーが連続するもてぎは、ブレーキに大きな負荷がかかるコースで、苦しい戦いになることが予想されるが、チャンピオン争いに残るためにはしぶとくポイントを獲得しなければならない。

予選日(土曜日)の天候は曇りだが、時折雨が降る難しいコンディション。路面温度は29℃と前戦の鈴鹿と比べて20℃近く低い。予選はA、B2つの組に分かれて行われ、吉田選手がA組に出場。雨は何とか持ちこたえており、吉田選手はドライタイヤを履いてコースイン。長めのウォーミングアップの後、5周目にアタック。しかし、アタック中にシフトダウンができなくなる不調があり、タイムは1分49秒498。A組12位となり、両組合わせての順位は23位。昨年の第7戦以来となるQ1ノックアウトとなった。

決勝日(日曜日)の天候は曇り。路面温度はそれほど高くなく、チームはタイヤ無交換を前提とした2スティント作戦をとる。スタートドライバーは川合選手。川合選手は1台抜いて22位でオープニングラップを終了。2周目にも1台抜き、21位に順位を上げるが、4周目に#21アウディに抜かれ22位を走行する。9周目に複数の車両によるアクシデントが発生。セーフティカー(SC)が導入される。川合選手から無線を通じてタイヤの摩耗が進んでいるという連絡を受けた近藤チーフエンジニアは、作戦変更を決断。SC先導中の12周目に川合選手をピットに戻す。給油を行いタイヤ4本を交換。SC中のピットインではドライバー交代ができないため、川合選手がコックピットに収まったまま25位でコースに復帰する。14周目からSC解除。川合選手の単独走行時のペースは良好で、18周目には20位まで順位を上げる。20周を過ぎた頃からライバルがピットに入るようになり、長めの走行を続ける川合選手は33周目に2位まで浮上。37周目まで引っ張ってからピットに入り、作戦変更は成功したと思われた。吉田選手に交代し、給油のみでリスタート。集団の中、14位でコースに復帰するが、GRスーブラGTの集団の中でのスピード不足は顕著で、吉田選手はなかなか順位を上げることができない。42周目に2回目のSCが導入されるが、不利な状況は変わらないため、50周目の終わりに3回目のピットイン。予選で試すことができなかったタイヤに交換し、実質的なテスト走行に切り替える。苦しい状況の中で何をやるかを考えたギリギリの選択。吉田選手は最後尾(27位)まで順位を下げ、ほぼ単独で周回。タイヤのポジティブな感触を確かめ、26位でチェッカーを受けた。次戦の舞台は相性の良い富士スピードウェイ。再びスピードを取り戻し、上位争いに戻ってくることを期待したい。

決勝結果 (GT300)

#52 埼玉トヨペット Green Brave GR スーブラ GT

(吉田広樹/川合孝汰)

決勝: 25 位 (59 周、2 時間 04 分 44 秒 046)

予選: 23 位 (Q1: 1 分 49 秒 498)

GT300 決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1位:	LEON PYRAMID AMG(メルセデス AMG GT3)	59
2位:	JLOC ランボルギーニ GT3(ランボルギーニ ウラカン GT3)	59
3位:	スバル BRZ R&D SPORT(スバル BRZ GT300)	59
4位:	K-tunes RC F GT3(レクサス RC F GT3)	59
5位:	Hitotsuyama Audi R8 LMS(アウディ R8 LMS)	59
25 位:	埼玉トヨペット Green Brave GR Supra GT(トヨタ GR スーブラ GT)	59
天候: 曇、路面: ドライ ※トップ5まで(出走30台)		



DRIVERS VOICE



第1ドライバー吉田広樹

(予選後) 午前中と違うフィーリングがあり、なかなか自分の思い通りに走れなかったので、悔しいですね。午前中のフィーリング、悪くないかなと思っていたので、同じようにいけるかと思ったのですが、それができなかった。出し切ろうとした結果、悪い方にいき、抑えたみたいになってしまったので、本当にかみ合わなかったです。

(決勝後) 予選の流れ的に選べる作戦も少なく。前半はいいかなと思ったのですが、やっぱりタイヤ無交換には無交換なりのリスクがあり、なかなかうまくかみ合わなかったですね。頑張りがかったのですが、どちらかというとライバルに離されるほうで。悔しいですが、いろいろ含めて次に向けて切り替えようということでやった結果がこれです。最後に試したタイヤは今のところは悪くないかなというところですよ。



第2ドライバー川合孝汰

(決勝後) 後方からのスタートだったのですが、順位を守ることはず、抜いていこうと考えていました。序盤、ダンゴになっている時に2台をかわせて、良かったのですが、クルマ的にストレートが遅いので、ストレートが速いクルマが来ると、どうしようありませんでした。クルマの重さはあったのですが、特性の問題なのか、他のクルマよりブレーキもいけないので。SCが入ったタイミングでタイヤが厳しいという感じになり、固いタイヤに交換し、吉田さんにまかせるという方向にいました。流的には正解だったと思います。

MECHANIC VOICE

(新座支店・平松大輔)

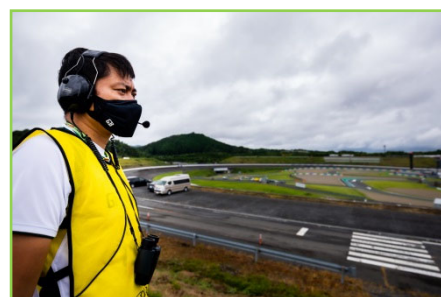
SUPER GTに3年ぶりに参加しました。参戦当初のチームはシーズンを戦うことが目標でしたが、4年目の今年は、初戦で優勝したことにより、他から注目されるチームになってきました。いろいろ責任は増えていますが、チームの雰囲気はかなり良くなっているの、いいですね。



チームランキング GT300

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	11	GAINER	51
2位	65	K2 R&D LEON RACING	50
3位	2	Cars Tokai Dream28	43
4位	61	R&D SPORT	43
5位	52	埼玉トヨペット Green Brave	37
6位	55	ARTA	29

トップ6まで



PARTNERS



アルパインマーケティング株式会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



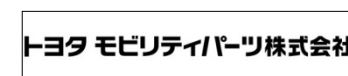
埼玉群スリーボンド株式会社



株式会社 Team Iwakiri Japan



株式会社ドーム



トヨタモビリティパーツ株式会社



株式会社ハッピーライフ彩生

※50 音順

【次戦予告】 10月3日~4日 富士スピードウェイ (静岡県小山町)